

(第5号様式)

学位論文審査の結果の要旨

氏名	佐々木 よし美
審査委員	主査 中道 仁美 副査 胡 柏 副査 市川 昌広 副査 松岡 淳 副査 川田 和秀

論文名

高齢化する農村における園芸を取り入れたヘルスプロモーション
-健康な村づくりのための医療職者の支援枠組み-

審査結果の要旨

本論文は、高齢化が進行する農村で、住民自らが日常生活の中で健康を維持・増進するための取り組みの一つとして、園芸活動（農作業）を取り入れた健康づくりに注目し、活動に対する医療職者の支援について取り上げ、園芸活動（農作業）と高齢者の健康づくりだけでなく、医療職者の視点を入れるなど、農村福祉分野に新たな研究・分析視点を提示している。

本論文の課題は、高齢化が進行する農村の健康問題に焦点を当て、健康に関する問題を明らかにし、その要因を探り、近年注目されている園芸活動（農作業）に注目して、健康に関する問題を解決するため、園芸活動（農作業）に対する医療職者の支援方法を明らかにすることにある。

本論文の研究方法は、既存データ分析と実態調査による事例分析である。高齢化と健康問題については、既存データの分析により、医療費、生活習慣病等について分析し、文献による先行研究分析を行い、徳島県の農村の住民や医療職者へのインタビュー調査から、農村住民の健康づくり活動と、医療職者の支援についての事例分析を行っている。

本論文では、まず、日本の高齢化にともなう健康問題について概観し、高齢化と国民医療費における課題や、生活習慣病との関連性について考察した。高齢者は複数の疾病を有しやすく、生活習慣病に関連した医療費が増大することから第一次予防対策が最も重要であり、地域密着型の医療職関係者が連携し、具体的な健康教育的支援を検討していくことが課題であることが示された。

先行研究では、農村における健康な暮らしづくりのあり方とその方法、農作業と健康の関係、健康づくりと園芸（農作業）活動における課題について考察した。健康なまちづくりの学際的研究理論や方法論の確立が急務であり、高齢者健康福祉活動の充実、社会教育活動の強化が求められた。健康づくりに適した園芸（農作業）方法を選択して取り組むためには、医療・保健・福祉の専門職者の的確なアプローチが必要であった。

徳島県の現状については、人口推移と高齢化を考察し、今後の健康づくり施策の課題を検討した。徳島県は少子高齢化が進行し、糖尿病による死亡率は全国ワースト1位で、生活習慣の改善、健診受診率や保健指導実施率の向上などが必要であった。徳島県西部では自殺者が多く、地域毎にこころのケアが求められた。

徳島県内の農村住民への健康実態調査を行い、高齢農業従事者の疾患の多くは生活習慣病によるもの

であり、生活習慣の改善、個々に適した体力づくりが重要であるとした。健康管理に対する意識が高く、若い世代から健康管理指導・健康教育を進め、看護師・保健師による巡回指導、地域包括ケア体制の構築など地域医療ネットワークを推進していくことなどが求められた。

農村住民の園芸活動を取り入れた健康づくりについて、医療職者への調査から、医療職者による支援内容を明らかにし、多職種連携における連携の意義と課題について考察した。医療職者が考える支援は観察、教育・指導・相談、安全管理、多職種連携の4つに集約された。医師の医学的指導の下、多職種者が連携して支援内容を検討するなど、連携を図り支援を推進していくことが効果的であるとした。

健康な村づくりの樹立には、医療職者が地域住民に積極的に働きかけ、地域特性に応じた疾病予防や健康の維持・増進のための活動を行うことが重要であるとした。残された課題として、見えない健康被害、DVと嗜好品接種について考察している。身体的・心理的暴力経験者が少なからず存在するため、被害者へのメンタルヘルスケアが必要であるとし、園芸活動で得られる心と体の健康づくりの効用について、より詳細な研究が求められるとした。また、今後、嗜好に関するヘルスプロモーションについて研究をおこなうことも課題であることが示された。

本論文は、以上のように、高齢化が進行する農村の健康問題に焦点を当て、園芸活動（農作業）に対する医療職者の支援方法を明らかにするという新しい研究に取り組んでいる。先行研究など、資料・文献研究も丁寧に正確に行われており、事例調査も適正に行われ、分析も的確であり、結果は十分に信頼足りうるものであり、博士論文として評価できる。

本論文の公開審査会は、2015年2月7日に愛媛大学農学部で開催され、論文審査と質疑応答が行われた。それに引き続いて、学位論文審査委員会を開催して審査し、審査委員全員一致して本論文が博士（農学）の学位を授与するに値するものと判定した。